

スポーツ医療先進国アメリカの旅



上は脊髄損傷専門のリハビリ施設

PROJECT WALK

右はMLB サンディエゴパドレスの本拠地 PETCO STADIUM

世界の治療家の環境・思考・技術を探訪

今回の研修旅行ではスポーツ医療先進国であるアメリカの治療家たちがどのような施設でどういった考え方で、どのようなアプローチ法をとりどんな技術を使って患者の痛みを取り除き、スポーツ選手の早期復帰を成し遂げているのか？日本で活躍中の3名の治療家とともに業界を支える（株）サンメディカルの全面的支

援のもと5泊7日の貴重な研修へ参加した。ご案内いただいたのはアメリカで治療施設「Body CRAFT」を経営され、スポーツ選手から一般の方まで絶大な信頼を得ているATC Ryu Kawajiri氏である。Ryu氏はアメリカ的な広い視野で物事の本質を読み取る優れた洞察力と世界に誇る日本人らしい細やかな技術力、治療家とし

て必須の溢れんばかりの熱い熱い情熱を兼ね備えた素晴らしい人物だ。こんな魅力的な人たちと共に体験したこと、感じたことを報告したい。下の写真は今回の研修であらためて重要性を認識した治療の3本柱である手技療法と物理療法（アキュスコープ）そして運動療法。



DOCTOR OF CHIROPRACTIC

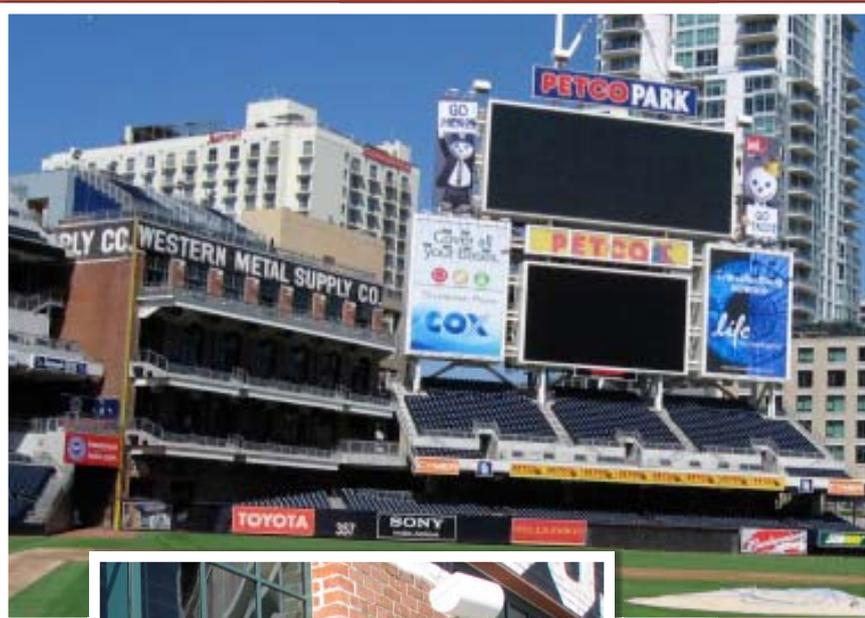


ACUSCOPE & MYOPULSE



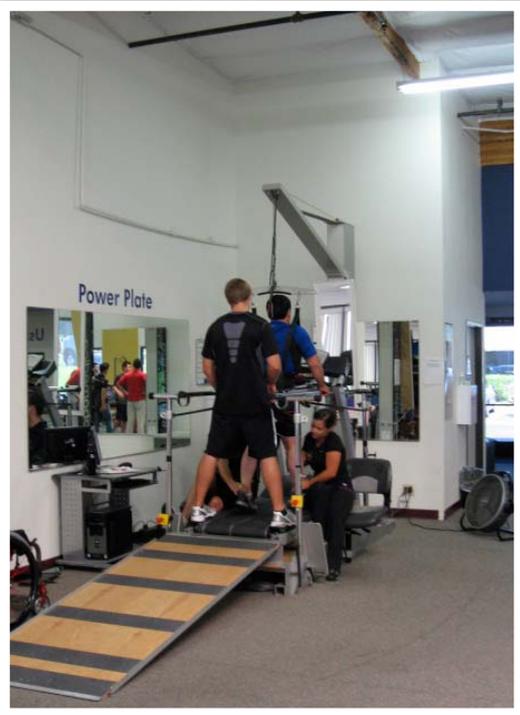
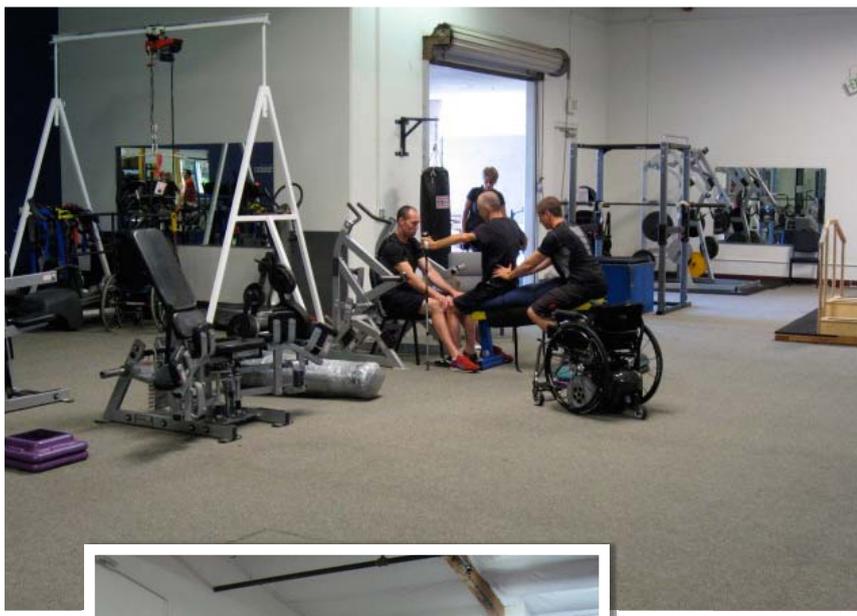
ATHLETIC TRAINING

PETCO STADIUM



ペトコスタジアムは100年を超えるレンガ造りの建物を活かした球場だ。公園と隣接されており、日光浴をしながらのんびり野球観戦することもできる。室内ではバーベキューもでき、カープの本拠地マツダスタジアムが参考にして球場を造ったことでも知られる。レンガ造りの建物の活用は当トレーニング施設の参考になりたい。

PROJECT WALK



PROJECT WALKは脊髄損傷専門のリハビリ施設だ。創業者はストレングスコーチで一人の患者の要望から始まった。積極的な運動により大幅な改善が得られ、その後全国から患者が集まるようになる。施設内は開放的でスタッフは陽気だ。患者は悲壮感に暮れることなく前向きで明るい。運動に重点を置いたリハビリ施設で当介護施設との共通点は多い。

今回の旅でご縁をいただいた同志の治療家たちと 2006年WBC チャンピオン 王 JAPAN 大塚晶則 投手

今回の旅でご縁をいただいた同志の治療家たちとMLBピッチャー大塚晶則選手をご紹介します。私たち治療家は1週間治療院を空けて、参加しています。必然的に皆さん意識が高く、どの方もカリスマ的な魅力を持たれています。そんな皆様と夜ごと意見交換をする時間はとても有意義でした。皆様の治療に対する情熱は半端ではなく、激熱討論を繰り広げました。また、(株)サンメディカル森本社長と私は同世代です。いつも私の欲しているものを感じて導いてくれるありがたいお方です。社長のおかげで今の私があると言っても過言ではありません。森本社長とサンメディカルスタッフに感謝です。

そしてこの度、ご縁を頂き大塚選手とお会いする機会を得ました。大塚選手は幾多の苦難を乗り越えて社会人からプロ野球、そしてメジャーへと移籍し、2006年WBCで王JAPAN優勝時の胴上げ投手になった選手です。メジャーで活躍するも2007年シーズン途中肘を痛めて3度の手術を行い、それでも必ず復帰をするという一念で、現在リハビリに励んでおられます。勉強熱心で一生懸命、言葉の端々から素晴らしいお人柄を感じる事ができました。あきらめない不屈の精神に感動し、多くの勇気をいただきました。大塚選手のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

ケガの治療とリハビリに**アキュスコープ**と**ホグレル**を選んでいます。一流アスリートも認める特殊治療器は、スポーツ障害・外傷でお困りの方のお役に立てる優れたマシンです。

同志の仲間たち



三田洞接骨院 原田 哲



すずき接骨院 鈴木清吾

<http://suzuki-bss.com>



(株)サンメディカル森本義成

<http://www.sunmed.co.jp>

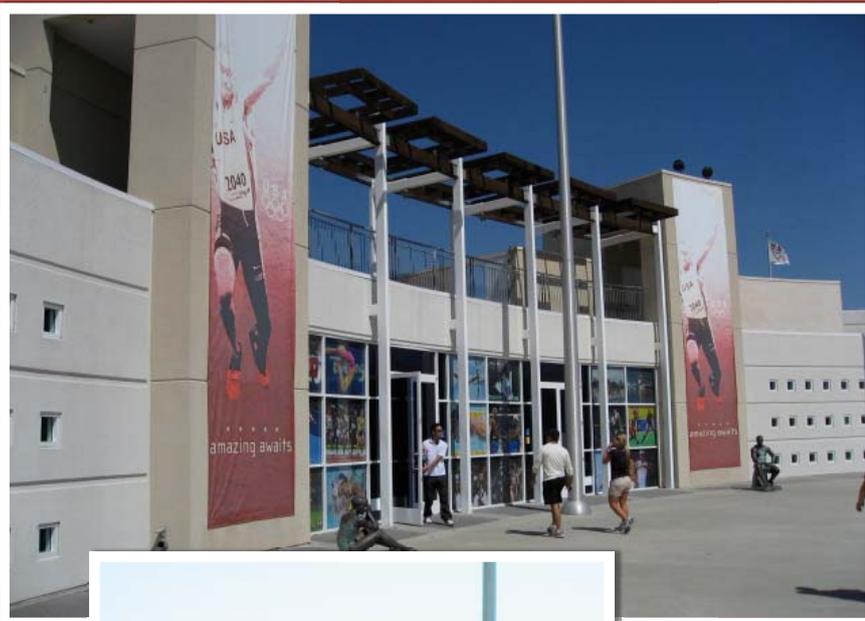


おかだ整骨院 岡田 憲明

<http://h-l-okada.com>



US OLYMPIC TRAINING CENTER



オリンピックトレーニング施設と大学アスレチック施設を見学した。リハビリ施設はテーピングやマッサージを効率的に行えるよう工夫されていた。トレーニング施設はスケールの大きさを感じた。リハビリにトレーニングは欠かせない。こういった環境が選手のモチベーションの向上に繋がり、怪我の予防、再発防止、競技力向上に役立っている。設備面の充実がスポーツ医療先進国を証明している。

ATHLETICS CENTER



- ▶ AUDITORIUM
- ▶ AZTEC SPORTS PROPERTIES / MARKET
- ▶ STRENGTH & CONDITIONING
- ▶ EQUIPMENT & TEAM ROOMS
- ▶ SPORTS MEDICINE



研修内容

アキュスコープ講習では基本概念を分かりやすく説明頂き、思考がクリアになった。アキュと手技療法、運動療法を織り交ぜての治療方法は斬新で多いに参考になった。それらはすべて一体でアキュスコープが繋げることで治療効果が飛躍的に高まる。アキュの可能性が大きく膨らみ、今まで実践してきた点と点が線で結ばれた。

18時間に及ぶ講習で講師の考えや技術にふれることができた。治療の視点と思考に共感し、今後の治療法が明確になった。

仙腸関節の障害と治療

仙腸関節の動きは2~4mmである。安定性を基本に設計され、大きな運動のために設計されていない。外傷としては交通事故や転倒、出産などで損傷し妊娠時や老化、肥満や歩行の異常など負担の累積により仙腸関節機能障害は引き起こされる。脊柱の不撓性や長時間の過度な運動も注意が必要である。

Egoscue

良い姿勢とは立位、座位、スクワット姿勢など体のポジションに関係なく関節の構造上の全体性を維持する能力である。Egoscueは正しい体、良い姿勢に導くためのエクササイズプログラムである。健康の法則として正しい呼吸や5本指ソックスによる垂直荷重やバランス力があげられる。一般的には関節の劣化と痛みは筋肉の弱化的原因になると考えられているが、Egoscueでは筋肉の弱さと機能障害は関節の劣化的原因になると考えられている。



RYU KAWAJIRI

BODY CRAFT代表 ATC

アキュスコープの講義をしていただきました。アキュスコープの概念をご説明頂き、治療法に関しては体系的に捉え、誰にでも分かりやすく、納得できるものでした。ディスカッションは大変有意義なものでした。



CLIFFORD LALA

DOCTOR OF CHIROPRACTIC

仙腸関節の障害と治療の講義を担当されました。解剖、バイオメカニクス、障害メカニズム、評価と治療までご説明頂きました。今日仙腸関節機能障害は全ての腰痛の50%を超えるといわれている。



KEVIN MESSEY

UNIVERSITY OF CALIFORNIA SAN DIEGO MS,ATC,CSCS

PNFの講義を担当されました。PNFとは個々の患者がより高度なファンクショナルレベルに到達するのを手助けすることを目的とした総合的な治療コンセプトであり、運動療法として有効である。

スポーツ医療の本場で感じたこと



皆様が元気で暮せる幸せな社会の実現を目指して

治療に大切なこと

1. 正確な診断
2. 本質を見抜く洞察力
3. 整復術と固定術
4. 手技療法
5. 物理療法 (アキュスコープ)
6. 運動療法 (ホグレル)
7. 人間性
8. あきらめない心

スポーツ医療の先進国アメリカのサンディエゴで治療の現場を見て回り治療家の視点とアプローチ法、技術を勉強することができた。彼らは日本に負けないきめ細かな観察眼と技術力を持っていた。彼らは私たちと同じように手技療法と物理療法の両輪を必要なものと認識していた。運動療法では設備面でスケールの大きさを感じ、運動の重要性は日本よりも強く持っていると感じた。観るもの、感じるものすべてに気付きや発見があった。アメリカの治療家の考えを学び、治療手法や患者に対する

思いに共感することができた。同時にこの道に進み18年間目指してきた道は正しかったと自信を深めることができた。患者様一人ひとりと真剣に向き合うことで人間のカラダの本質を理解出来てきたように思う。この度の研修旅行で当院の技術、設備、視点は世界レベルであると実感することができた。今後も治療に大切な8つのことを磨き、皆様のお役に立てるよう頑張りたい。私たちの知識と技術を最大限に活かし、皆様が元気で暮せる幸せな社会を実現したい。